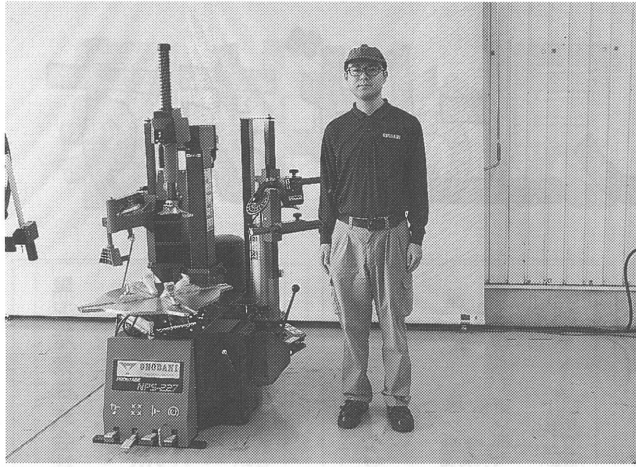


小野谷機工の新型タイヤチェンジャー

プロステージ

PROSTAGE NPS シリーズ



PROSTAGE NPS-227と開発者の竹内優作さん

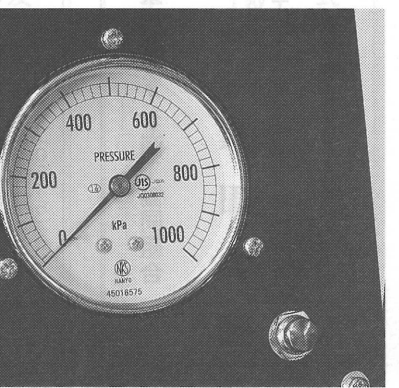
小野谷機工は、9月に一挙10機種の新型タイヤチェンジャー「プロステージ NPS」シリーズの販売開始する。NPS-220シリーズは10〜22インチのリム径に、NPS-240シリーズは12〜24インチのリム径にそれぞれ適応する。作業環境に応じてどちらのシリーズも5つのタイプが選べる。早速、同社本社で新商品について解説してもらった。

(木本)

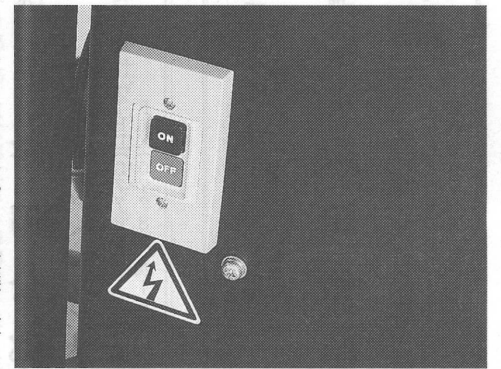
堅牢で価格相応の付加価値のある、軽劣化に貢献する作業性の良い製品を提供する。小野谷機工の戦略は明快である。

今回上市する新商品も、同社のあくなき開発意欲が生み出したバリエーション豊富なラインナップとなっている。

新商品について解説してくれたのは同社商品開発本部の竹内優作氏。まず目を引くのはカラーリングの大幅な変更だ。『本体塗装は従来品のレッドから艶消しブラックに変更しております。さらにプレート部分もブ



エア表示をキロパスカルに



メインスイッチを本体に設置

ラックから艶消しのレッドに変更し、プラスチックから鋼板製にしており「まさにシックで剛健なイメージ、従来品と印象がガラリと変わった。一目で格好いいと思えるデザインだ。」

作業負担の軽減を目標として、作業テーブルの高さは640ミリと低めに設定されている。オプションとして、作業軽減をサポートするタイヤ持ち上げ用のリフトを内蔵式のもの、また別置き式のもの2種(PLI-80、PLI-80LS)を用意した。

ペダル連動ゲージも従来のメガパスカル表記からキロパスカル表記に変更した。竹内氏は語る。「これなら扱いやすい。ペダルは2段式になっており、軽く踏むとエア充填、強く踏むとインフレーターが作動する。インフレーターは標準装

22インチ・24インチに対応

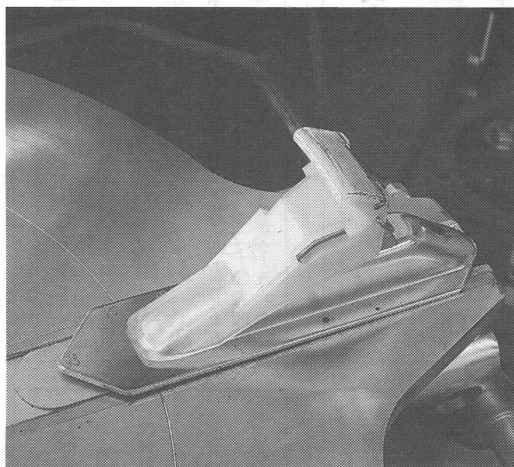
豊富なバリエーション

更した。『メガパスカルだとわかりにくいというお客様の要望に応えまして。普段、タイヤにエア充填する際の単位に合わせることで、エア充填量が解りやすくなったと思います』と竹内氏。確かに、

ペダル部のプレートは、従来のプラスチック製から鋼板製に変更。これは何かの拍子でタイヤが当たったときに損傷するケースがあるので、剛性を強化したものだ。作業テーブルのチャック爪の高さも従来品から13ミリ高くなった。『クリ

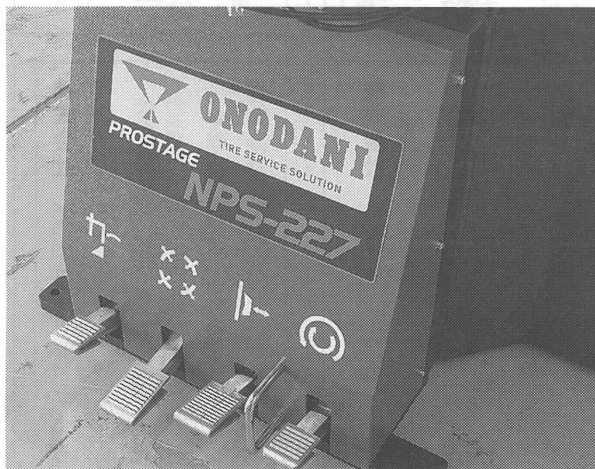
支柱部分には剛性を上げるため、ねじれ防止のホルトを設置した。『22インチ以上の高偏平タイヤでは、作業のたびに支ただけです』目立たない部分だが、これも細かい工夫の一環といえる。本体に初めてメインスイッチを装着したのも改良した部分。『今までですと、アフターメンテナンスの時に誤作動防止のため、プレーカーを落とさなければなりません。しかし、落とす手間がかかりますし、落とす忘れてメンテナンスする場合があります。こんな時に方が一機械を回してしまつと危険ですの

フォーモンスモデルのNPS-225、同245。ビードプレス、マウントプレス装置を装着したハイスベックモデルのNPS-227、同247。デュアルツールを装備し、高インチ、低偏平タイヤに最適なレバー作業、また通常のレバー有り作業が選択できるフルスベックモデルの227DT、同247DTの10機種を9月から販売開始する。オプションとして、熟練作業者のための作業テーブル回転スピード2段階仕様、SS向け防爆仕様、エア自動充電くん機PA-01、各種アタッチメントも用意した。様々な作業環境に対応し、安全作業・軽劣化に貢献するプロステージNPSシリーズ。同社ではすでに試験的に先行受付を開始し、お客様の反応も上々とのことだ。また一つ、ショップにとっ



チャック爪の高さを13mm上げた

鋼板製のプレートでさらに精悍な印象に



鋼板製のプレートでさらに精悍な印象に